

委員会要旨

日 時	令和6年5月15日(水) 午後1時30分から午後4時まで
場 所	軽井沢町中央公民館 大講堂
件 名	第7回軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会
出席者 委 員	池田靖史委員、佐藤絵理委員、小林久史委員、大町哲也委員、外川樹美代委員、田村恵美委員、佐藤公貴委員、小林広幸委員、篠原幸雄委員、佐藤一郎委員、本城慎之介委員、福原未来委員、柴崎雅寿委員、野村有里委員、船曳鴻紅委員、堀池玲子委員、堀内勉委員、山崎元委員、上田公三委員
町	小池副町長
事務局	新庁舎周辺整備課 土赤課長、篠澤室長、佐藤生涯学習課 外川補佐、新海館長
欠席	小林美智子委員、大工原亮子委員、小林里恵委員、饗場晴雄委員、島崎直也委員
1.	開 会
2.	議 題
(1)	基本方針の見直しについての議論
ア	環境政策方針(『ZEB等』)の検討について
	佐藤信孝氏(MOE佐藤事務所)より環境政策方針についてご講義をいただきその後委員と議論を行った。
	【主な議論】
	・ZEBと言ったときに、ZEB ReadyというのはZEBであると言い切っているものか。またZEBのランクを通常どういう基準で選んでいくものなのか。
⇒	『ZEB』、ZEBReady、NearbyZEBは全てZEBであり、その中のランクでどれを選択するかということである。実際の例を見るとエアコンと空冷ヒートポンプ、全熱交換機ぐらいでZEB Readyが達成できる。後は創エネの部分をどこまでお金をかけて考えていくべきかの選択である。
	・エネルギーをつくる創エネ部分についてどの程度までコストをかけるべきかといった意見はあるか。
⇒	軽井沢町はゼロカーボン宣言を謳っているので公共建築においてはできる限りやるべきだと考える。
	・ZEBという基準は、環境に良い庁舎を建てることだと思っているが、ZEBという基準以外に、他に何か環境に関する基準はあるのか。
⇒	LCA(ライフサイクルアセスメント)という考えでライフサイクルでどれぐらいCO ₂ を出すのかという計算式があり、それでLCAをできるだけ小さくしていこうという考え方もある
	また、建設廃棄時に発生するCO ₂ を減らすというエンボディドカーボンという考え方もある。
イ	対話の報告について
	対話の場として、step1「何でも聴かせてください会」を開催した。推進委員会のワーキンググループと住民の対話が主となり、町は説明役として参加。参加者は全4回で22人だったが、活発な意見交換が行われた。住民同士であれば対立構造が生まれにくい状況であった。

【主な議論】

・対話の中でどのような意見が出されたか。
⇒主な意見は次の4つであった。1つ目は110億円という事業費の説明不足と情報公開に関する不満。2つ目は、ハードよりもソフト面から考え、それに合わせてハードを整備すべきという意見。3つ目は、設計事業者選定のプロセスに対する疑問。4つ目は、前回選ばれた事業者が再選定された理由についての評価と説明を求める意見があった。

・今回参加された方は、これまでも意見等を出されていた方か。
⇒その辺りの情報をまとめて次回の委員会でお示しする。
・別荘所有者の方からも意見を収集する機会をもつべき。
・若い人の意見をきちんと聞くべきだが、若者の意見をどうやって集めるかを考えていく必要がある。
・こういった場で話された内容を町は整理し、発信して欲しい。
・オンラインによる意見収集の機会をもっと設けて欲しい。
※step2の「おしゃべり会」も引き続き開催予定。

ウ 今後のスケジュールについて

基本方針策定までのスケジュールについて説明。次回には基本方針（素案）を委員に提示し、最終的には8月の第10回の推進委員会で最終案を確認し、基本方針を策定・公表予定

【主な議論】

・アドバイザー採用の件はどうなっているのか。
⇒予定通りいけば、9月から始まる基本計画の策定までにはアドバイザーを採用したい。

エ 庁舎及び公民館について

Aの分棟案、Bの一体化案、Cの公民館改修案について、現状の委員の考えを伺った上で、次回の委員会で具体的な検討を行うこととした。

【主な議論】

・Bの一体化案、Cの公民館改修案に賛成する意見がそれぞれ出された。
・新築と改修のランニングコストの比較も入れて欲しい。
・設計者には、次回比較検討するに当たってのより具体的な資料を作成してもらいたい。

(2) その他

- ・次回の委員会 6/19（水）14：00 から中央公民館 講義室
- ・次々回の委員会 7/26（金）14：00 から中央公民館 大講堂

3. 閉会

以 上